

米国における教員の質保証の取り組みについて

— NCATE, INTASC, NBPTS の活動報告から —

A study of requirements of teacher certification in the United States

— The recent policies of NCATE, INTASC and NBPTS —

高 木 幸 子

Sachiko TAKAGI

1. 問題意識と目的

教育職員養成審議会第一次答申(1997)にも明示されているように、採用された段階で、教員には学級経営、教科指導、児童生徒指導のどれについても、大きな支障なく行うことが求められている。そのため各大学は、養成段階で準備する複数のプログラムに関して、達成目標や規準を明らかにしたカリキュラムの構築を進めているところである。筆者も、家庭科教員養成の立場から、2回の模擬授業を組み込むことの効果や課題、家庭科教育法と教育実習事前指導(中等家庭科)の内容的な連携のありようなどについて検討を進めてきた(高木 2007abc, 2009abc)。そして、養成段階で描く教員像や求める力を明確にするためには、養成プログラムの内容や構造の検討とともに学生が教員として採用されたのちの成長も視野に入れて検討することの必要性を知見として得てきた。

日本では、教員に採用された1年日に、初任者研修が行われ、その後もライフステージや職階に応じた研修が準備されている。しかし、これらの研修を教師としての成長の視点から概観すると、個々の研修目的は示されているが、研修全体を貫く基本理念は具体的には明示されていない。一方、アメリカでは、州により教員の質保証に関連する具体的取組

みは様々であるが、本報告で紹介する3機関は養成から採用、現職教員の研修を通して、相互に関連し、共通の理念をもって教員の質保証を担っている。そこで、この3機関に注目し、各機関がアメリカの一般教員向けに公開している資料をもとに活動を概観する。そして、教師としての成長の視点から養成段階で重視すべき点について考察する。

2. 教員の質保証を担保する中核理念

アメリカの教員の力量形成にかかわる主な機関は、NCATE (National Council for Accreditation of Teacher Education), INTASC (Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium), NBPTS (National Board for Professional Teacher standards) である。これらの3機関は教員の質保証という命題のもと、それぞれ独立した機関として活動が行われているが、それぞれの段階におけるシステムを相互に関連させ、教員養成段階、免許取得段階、現職教育段階を通して変わらず重視される共通の中核理念として5つの方針が掲げられている

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 教員は、生徒と生徒の学習に献身的である。 ② 教員は、自ら教える教科とその教科を教える方法を知っている。 ③ 教員は、生徒の学習を管理し、監督する責任を有している。 ④ 教員は、自らの実践について体系的に思索し、経験から学ぶ。 ⑤ 教員は、学習共同体のメンバーである。 |
|--|

(図1)。これらの方針に示されている教師の姿を概観すると、児童生徒に対する教師の態度、教授内容や教授方法に関する知識、学習運営や学習環境のマネジメントにかかわる内容が示されている。さらに、省察できる教員の姿と連携する教員の姿が描かれている。

このように教師に求められている要素を整理すると、決して特別に有能な人材が描かれているわけではない。そこでは、子どもの学習に対する責任をもち、同僚との円満な関係のなかで自分自身の実践を振り返り生涯にわたって学び続けることのできる教師の姿を描くことができる。それは、生涯にわたって成長する教師の姿と重なるものであり、教師の質の内容を表していると考えられる。そこで、各機関がどのような活動により、教師の質保証を担保しているのか整理する。

3. 各機関の活動内容

(1) NCATEの活動

NCATEは、5つの団体¹⁾がもとになって1954年に設立された、教員養成機関に特化した専門分野別認証機関である。主な活動は3つあり、それらは、①認証基準の改訂、②州との共同関係、③州間新任教員評価支援協議会 (Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium: INTASC)、全米教職専門基準委員会 (National Board for Professional Teaching Standards; NBPTS) との連携

- ① 基準そのもののことば
- ② 基準の要素と3段階の熟達を示したルーブリック
- ③ 基準の説明

図2 基準の説明

表1 ユニット規準

規準1	Candidate Knowledge, Skills, and Professional Dispositions (志願者の知識、技術、専門家としての資質)
規準2	Assessment System and Unit Evaluation (評価システムとユニット評価)
規準3	Field Experiences and Clinical Practice (フィールド経験と臨床実践)
規準4	Diversity (多様性)
規準5	Faculty Qualifications, Performance, and Development (学部の質、パフォーマンス、発達)
規準6	Unit Governance and Resources (ユニット管理、資源)

-
- 1 a: Content Knowledge for Teacher Candidates (内容の知識)
 - 1b: Pedagogical Content Knowledge and Skills for Teacher Candidates
(授業を想定した知識と技術)
 - 1c: Professional and Pedagogical Knowledge and Skills for Teacher Candidates
(専門性と教育学的知識・技術)
 - 1d: Student Learning for Teacher Candidates (生徒の学習)
 - 1e: Knowledge and Skills for Other School Professionals (知識と技術)
 - 1f: Student Learning for Other School Professionals (生徒の学習)
 - 1g: Professional Dispositions for All Candidates (専門家としての資質)
-

図3 ユニット規準(規準1)の下位項目

である。

また、NCATEは、2008年には33の団体が構成されており、ここで認証を受けた教員養成機関は2002年現在で550を超える（佐藤2002）と言われている。NCATE自身も、認証団体を認証する高等教育機関基準認定協議会（Council for Higher Education Accreditation）と、連邦教育省から承認されている。

教員養成段階の力量形成にかかわる機関であるNCATEは、教員養成プログラムを提供している組織（大学、学部など）及び教員養成プログラムを対象として、認証を行っている。その認証の是非を検討する際に用いられるのが、ユニット規準とプログラム規準である。一般には、NCATE規準は、ユニット規準をさす言葉として用いられていることから、ここでは、まずユニット規準を取り上げ紹介する。

ユニット規準には、6つの規準が設定されており（表1）、それぞれ3つのコンポーネント（図2）に分けて説明がなされている。

これらの6つの規準を概観すると、組織が整えるべき内容、システムとして機能することが求められる内容、その中にいる学生（志願者）に期待されている内容に分けることができる。筆者の課題意識の中心に位置づけている教師の授業実践力にかかわるのは、規準1の志願者の知識、技術、専門家としての資質である。

さらに、6つの規準には、その内実を構成する要素が下位項目として記述されている。規準1の「志願者の知識、技術、専門家としての気質」であれば、〈1a〉～〈1g〉の7項目が設定されている（図3）。ここで注意しておきたいのは、認証の対象となる組織の種類によって参照する項目の表現を多少変えて示されている点である（図3中、下線部参照）。

表1には、ユニット規準の一つとして多様性が求められているが、多様性を認めることはややとすると質のばらつきを生む。教員養成の質を保証するために、こういった多様性に対応する下位項目を設定することで対応を図っていると推察する。

さらに、それぞれの下位項目の規準は、「容認できない、容認できる、日標」の3段階にわけて、それぞれの状況を具体的に表すルーブリックが示されている（図4-1、図4-2、図4-3）。

このように、規準1およびその下位項目の規準やルーブリックで示された基準を概観すると、規準1は、教員養成プログラムを運営する側（大学教員）がプログラムを受ける志願者（学生）に求めている

力量の内容とレベルを提示していることが分かる。この例で言えば、規準1および下位項目の規準を通して、教員養成プログラムを受けた学生の達成レベルが示されているということである。たとえば、「1a：内容の知識」では、教員免許の試験で80%以上に解答できることが、「1b：授業を想定した教材の知識」では、教育学的な知識や基本的な教授方略をもとに、授業の場面での学習を推進することが求められている。

以上、ユニット規準は、教員養成プログラムを有する組織（学部）を対象とする規準であったが、プログラムそのものの認定を行う際にはプログラム規準が用いられている。

資料によれば、2008年には、プログラム規準として図5に示した23の領域について準備され公開されているが、それぞれのプログラムは関連の専門機関が中心になって作成されている。たとえば、領域「中等学校（Middle school）」のプログラム規準は、NMSA（National Middle Schools Association）という専門機関により作成され、2001年に編集されたものが2011年まで適用されることとなっている。このように、領域により担当する専門機関があり、定期的にプログラムの見直しや更新を行っている。更新が行われる年と適用期間は領域により異なる。

それぞれの領域のプログラムには、図6に示すようにその領域の教師に求める内容が示されている。

(2) INTASCの活動

INTASCは、1987年に州教育長協議会（Council of Chief State School Officers）のプロジェクトとして発足した団体である。INTASCの任務は、「新任教員の評価と基準のモデルを開発することを通して、基準を基にした（Standards-based）改革を推進する」ことであるとされ、INTASCが示す教員免許のモデル基準は、教員としてのキャリア形成の中で、最もコアな特質を表している。それは生徒の学習と発達の知識、カリキュラムと教授に関する知識、といった教科を横断する実践の基礎を形成するものと意図されている（佐藤2002）。

ここでは、教員の認定モデル基準を示しており、教員になるには、どんなことを知らなければならないのか、何ができなければならないのかということに関する10原則が示されている（表2）。

これらの10原則を概観すると、教師は教授内容や子どもの発達、子どもの学び方に関する個人差や教授方略に関するものの理解が求められており、子ど

規準1 Candidate Knowledge, Skills, and Professional Dispositions
(知識・技術・専門家の姿勢)

Dispositions: 教師あるいは専門職として学校で働く準備をしている志願者は、すべての生徒の学習を助けるために、内容の知識、教育的な内容の知識と技術、教育的専門的な知識と技術、そして、専門家としての気質をわかり行える。評価は、志願者がみる専門家、州、協会の基準を示している。

1a: Content Knowledge for Teacher Candidates (内容の知識)

受け入れられない	受け入れられる	目標
<p>・教師志願者は、教えるために計画する内容に知識が不十分である。また、専門家や州や協会の規準に示された重要な本質や概念を説明できない。</p> <p>・資格のための試験を必要とする州の内容試験が80%以下である。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、教える内容の深い知識を持っていない。</p>	<p>・教師志願者は、教えるために計画する内容を理解している。また、専門家や州や協会の規準に示された重要な本質や概念を説明できる。</p> <p>・資格のための試験を必要とする州の内容試験に80%以上で通過している。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、教える内容の深い知識を持っている。</p>	<p>・教師志願者は、専門家や州や協会の基準に示された規準のように、計画し教える内容を深く理解している。</p> <p>・彼らは、調査や批判的分析や教科の総合化を通じて知識を表現する。</p> <p>・すべてのプログラムの構成要素は、資格のための試験を必要とする州の内容試験を通過している。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、教える内容を熟知しているエキスパートである。</p>

1b: Pedagogical Content Knowledge and Skills for Teacher Candidates
(授業を想定した知識と技術)

受け入れられない	受け入れられる	目標
<p>・教師志願者は、彼らが技術を統合し、生徒の文化的背景や学習のための内容の知識を構築する学習経験を伸ばすことを助ける方法の中で、内容と専門家や州、公的な規準に示された内容の特別な教授の関係について理解していない。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、内容と内容の特別な教授の関係の理解が限られている。彼らは、理論と実践の間のつながりを説明できない。</p> <p>○彼らは、生徒の学習を企画する広い範囲の教授方略を選択したり用いたりできない。</p>	<p>・教師志願者は、内容と専門家や州や協会の規準に示された教育学的な内容の関係を理解している。</p> <p>・彼らは、すべての生徒の学習を助けるために、専門家や州や協会の規準に示された内容と教育学的知識や技術を高めるための教授方略を広く理解している。</p> <p>・彼らはわかりやすく意味ある方法で、内容を提示し、テクノロジーを用いて学習を推進する。</p> <p>○教師のためのアドバンスプログラムの志願者は、彼らの分野の内容や理論を教育学や学習に関連付けて深く理解している。</p> <p>○彼らは、生徒の学習を運営するために、広い範囲の教授方略やテクノロジーを選び使える。そして、実践の中で、行う選択をわかりやすく説明できる。</p>	<p>・教師志願者は内容と特定の内容の教授と公的な規準の関係の全体の理解を省察する。</p> <p>・彼らが教えるために計画する内容を深く理解している。そして、全ての生徒が学ぶ多様な説明と教授方略を提供できる。</p> <p>・彼らは、挑戦し、明快な、そして人を引き付ける方法で、現実世界の文脈や技術を充当してまとめることの内容を生徒にしめすことができる。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、優れた教育学的知識を持っている。そして、学校やコミュニティーでリーダーシップやメンターの役割を通して、優れたところを共有する。</p> <p>○彼らは理解し、生徒が学習を妨げる先入観を生徒に示す。彼らは教育者と学習を関連付ける研究や理論を批評できる。彼らは、全ての生徒が学ぶのを助ける研究や経験に基づき、教授方略を選び、成長できる。</p>

図4-1 規準1の下位項目規準(1a, 1b)のルーブリック

1c: Professional and Pedagogical Knowledge and Skills for Teacher Candidates
(専門的・教育学的知識と技術)

受け入れられない	受け入れられる	目標
<p>・教師志願者は、学習を推進するために、専門家や州や協会の規準に示された専門的・教育的な知識とスキルを習得していない。</p> <p>・彼らは、学校、家庭、地域の知識に欠けている。そして、生徒のより重要な経験につながる学習経験を発達させられない。</p> <p>・彼らは、自分の仕事を振り返らないし、実践を知らせるために、最近の研究をもちいることもしない。</p> <p>・彼らは、学校や授業や学習について考えられた主な学校を説明できない。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、彼らの実践について省察しない。そして成長した分野や成長が必要とされる分野を認識できない。</p> <p>○彼らは、職能成長を約束できない。</p> <p>○彼らは、最近の研究や学校の方針、教授、学習、最もよい実践を並行して保てない。</p> <p>○彼らは、意味深い学習経験を発達させるための専門家集団に没頭しない。</p>	<p>・教師志願者は、学習を推進するために、専門家や州や協会の規準に示された専門的・教育的な知識とスキルを提供する。</p> <p>・彼らは、学校、家庭、働いている地域の状況や、意味ある学習経験を発達させるために生徒のより重要な経験を熟考する。</p> <p>・彼らは実践を振り返る。彼らは学校や教授・学習についての主なものを理解している。</p> <p>○教師のためのアドバンスプログラムの志願者は、実践を振り返り、伸びと向上が必要な分野を同定できる。彼らは、専門家の活動を提供する。</p> <p>○彼らは、学校や家族、働いている地域の状況を熟知している。そして、彼らは、すべての生徒にとって意味深い学習経験を創造するために専門家の共同体をコラボレートする。</p> <p>○彼らは最近の研究や学校や教授学習の方針、最も良い実践について知っている。</p> <p>○彼らは、教育研究や方針を分析できる。そして、彼ら自身の実践や職業に対して関係を説明できる。</p>	<p>・教師志願者は、専門家や州や協会の規準に示された専門的・教育的な知識とスキルの理解全体を省察する。</p> <p>・彼らは全ての生徒に対して学習を推進するための意味深い学習経験を発達させる。</p> <p>・彼らは、実践を省察し、生徒の学習を元気づける必要な判断をする。</p> <p>・彼らは、生徒の学習方法やアイデアをつなぐ方法を知っている。</p> <p>・彼らは、学校、家庭、生徒のより重要な経験とつながっている地域の文脈を熟考する。そして、アイデアを現実世界の課題に働きかける。</p> <p>○教師のためのアドバンスプログラムの志願者は、専門的で教育的な知識の確かな視点の中の素晴らしさを発達させる。そして、彼らの研究や経験に基づいた対話に貢献する。</p> <p>○彼らは、専門家のなかまの中でリーダーの役割をする。そして、学校改善や更新に貢献するために同僚と連携する。</p>

図 4 - 2 規準 1 の下位項目規準 (1c) のルーブリック

1d: Student Learning for Teacher Candidates (生徒の学習)

受け入れられない	受け入れられる	目標
<p>・教師志願者は、生徒の学習を正確に査定し、生徒の発達レベルやより重要な経験に基づく学習経験を発達させることができない。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、生徒の学習を査定することに関連している主な概念や理論を限定的に理解している。</p> <p>○彼らは、教授方略について意思決定をする授業パフォーマンスデータを用いない。</p> <p>○彼らは、生徒の学習を支援するために、地域資源を使わない。</p>	<p>・教師志願者は、生徒の学習に焦点を当てる。教師志願者は、評価し、生徒の学習を分析する。</p> <p>・彼らは生徒の発達レベルに基づいて、よりよい経験のために意味ある学習経験を発達させ遂行できる。</p> <p>○教師のためのアドバンスプログラムの志願者は、生徒の学習や評価のための主な概念や理論と結びつける全体を理解している。そして、それらをいつも実践に組み込む。</p> <p>○彼らは、生徒、学習、学校パフォーマンスデータを分析する。そしてすべての生徒が学ぶための教授学習の方略を作る。</p> <p>○彼らは生徒の学習を支援する学校や地域の資源を理解し利用している。</p>	<p>・教師志願者は、生徒の学習に着目し、彼らの仕事の効果を学ぶ。</p> <p>・彼らは、生徒の学習を査定し分析する。教えるための適切な判断をし、生徒の学習をモニターし、全ての生徒のための学習に主体的な効果を持つ。</p> <p>○教師のアドバンスプログラムの志願者は、完全な評価の理解をしている。</p> <p>○彼らは、生徒、授業、学校パフォーマンスデータを分析する。そして、教授・学習のための方略についてデータに基づいた意思を作るために、全ての生徒は学習する。</p> <p>○彼らは、生徒の学習を支援する方略や介入を同定しデザインするために他の専門家と連携する。</p>

1e: Knowledge and Skills for Other School Professionals (略)

1f: Student Learning for Other School Professionals (略)

1g: Professional Dispositions for All Candidates (専門家としての姿勢)

受け入れられない	受け入れられる	目標
<p>・志願者は、専門家や州や協会の規準に示された専門家の気質によくなじんでない。</p> <p>・志願者は、すべての生徒が学習できる公平さや信念の理想と調和した学級行動を示さない。</p> <p>・彼らは、生徒や家族、同僚や地域と一緒にの仕事の中でこれらの専門的な資質をモデルとしない。</p>	<p>・教師志願者は、専門家や州や協会の規準に示された専門家の気質によくなじんでいる。</p> <p>・志願者は、すべての生徒が学習できる公平さや信念の理想と調和した学級行動を示す。</p> <p>・生徒や家族、同僚や地域と一緒にの仕事は専門家の気質を省察する。</p>	<p>・志願者は、専門家、州、公的な規準に描かれたように専門的な教育者に期待された専門家の姿勢を省察する方法で、生徒、家族、同僚、地域とともに働く。</p> <p>・志願者は、全ての生徒のためのケアリングや支援学習環境や自己調整学習を生み出す学級行動を表す。</p> <p>・志願者は、彼ら自身の専門家としての姿勢が適合し、そうするための計画を向上させるとき、認識する。</p>

図4-3 規準1の下位項目規準(1d, 1g)のルーブリック

-
- ・ コンピュータサイエンス(Computer Science)
 - ・ 教育工学リーダー(Educational Technology Leadership)
 - ・ 幼児教育(Early Childhood Education)
 - ・ 初等教育(Elementary Education)
 - ・ 教育リーダー(Educational Leadership)
 - ・ 英語教育 (English Language Arts(secondary))
 - ・ 教育工学リーダー(Educational Technology Facilitation)
 - ・ 環境教育(Environmental Education)
 - ・ 外国語(Foreign Language)
 - ・ 学校図書館の専門家(School Library Media Specialist)
 - ・ 才能教育(Gifted and Talented Education)
 - ・ 学校メディアと教育工学(School Media and Educational Technology)
 - ・ 健康教育(Health Education)
 - ・ 学校心理学(School Psychologist)
 - ・ 数学教育(Mathematics Education)
 - ・ 化学教育(Science Education)
 - ・ 中等学校 (Middle school)
 - ・ 保健教育 (Physical Education)
 - ・ リーディングの専門家(Reading Professional)
 - ・ 社会学習(Social Studies)
 - ・ 特別教育(Special Education)
 - ・ 第二言語としての英語教育(Teaching English as a Second Language)
 - ・ 工学教育(Technology Education)
-

図5 プログラム規準の領域 (2008)

<http://www.ncate.org/public/programStandards.asp?ch=4>

-
- ① 中等学校の教師はおもなコンセプト、原理や青年期の発達理論を理解している。彼らは、すべての青年前期の学習者の発達の理解を省察する積極的な学習の機会を創り出す。
 - ② 彼らは、チームを作り、助言をし、すぐれたカリキュラムを行う。そして、健康な青年期の発達を促進するための学習を提供する。彼らはチームで働き、生徒の学習を最大にするために柔軟な授業時間を利用する。
 - ③ 中等学校の教師は、統合されたカリキュラムをデザインし、すべての青年前期に適した材料(素材)を選ぶ。彼らは生徒の達成を測定するために評価方略を用いる。
 - ④ これらの教師は、中心概念や、基準、専門分野の内容構造を理解し用いる。彼らは、学際的な連携のために、特別な教授や評価方略を用いて内容を統合する。
 - ⑤ 彼らは、個人的に、共同的に計画し授業を行う。この教師たちは次の授業計画に適用するために評価データを用いる。
 - ⑥ 中等学校の教師は、前の学習経験や家族の考え方が青年前期の学習にどのように影響するのかを理解している。彼らは、つながりのある学習経験を生み出すために生徒の家族や地域と連携する。
 - ⑦ 中等学校の教師たちは、様々な専門家と連携し、授業実践を向上させるための継続的な自己内省に加わる。彼らは、すべての青年前期の子どもたちに対するメンターやアドバイザーとして奉仕する。
-

図6 中等学校のプログラム規準の記述 (Middle School Program Standards: WHAT A MIDDLE SCHOOL TEACHER MUST KNOW AND BE ABLE TO DO)

もにとって適切な学習環境の整備や学習の機会を生み出すなど、授業として実現する力量が求められている。さらに、評価方略を用いて生徒の学習を評価するだけでなく、教師自身が働きかけたことの効果を振り返ったり専門性を高めたりするために省察すること、同僚等とのかかわりを通じてコミュニティを広げることが原則として謳われている。このことは、教員免許資格を与える段階から、その後続く、教師として自ら成長する過程を歩んでいくことを求めていると理解できる。

(3) NBPTS の活動

NBPTSは、1986年のカーネギー財団の報告書「備えある国家—21世紀の教員」での提案に基づいて1987年に設立された組織である。「教員は何を知るべきで、さらに何をすることができるのか」という観点から基準を設定し、基準を満たす教員に対して優秀教員証明書(National Board Certification; NBC)を発行している。

現職教育段階の教師の力量形成にかかわる機関としてNBPTSがあることはすでに述べたが、ここでは、NCATEやINTASCが重視する方針の延長線上で行われている教員の資格認定の更新システムについて紹介する。このシステムは、教員が学校を基盤とした日常的な実践を通じて作られる力量について、申請に基づき評価を行うものである。準備された項目で設定された基準を超えていれば申請した資格が認定あるいは更新され、設定された高い基準を満たせば優秀教員としても認められる。このシステムでは、申請する教員が学校で行っている専門の領域や対象児童生徒の発達段階に応じて、どのような力がどの程度必要かといった資格認定規程および基準が詳細に作成されている。申請を検討する教師は、それらの情報が含まれた資料を自由にダウンロードし、またガイダンスなどを参考にしながら申請の準備を進めていける。申請された書類や授業実践データが、その後、どのような手順を経て評価されるのか、また、どのような人に評価され、どのように得点化されるのかなどについても、明示されている。

表2 教員免許モデル基準(INTASC)に示されている10原則

原則1:	教師は、中心となる概念や研究の道具、彼(彼女)が教える訓練(規律)の構造を理解している。そして、生徒にとって意味深い内容の観点を作る学習環境を生み出せる。
原則2:	教師は、どのように子どもが学習し発達するかを理解している。そして、彼らの知性や社会的、個人的発達を支援する学習の機会を提供する。
原則3:	教師は、生徒の学ぶアプローチがどのように異なっているか知っている。そして、異なった学習者にふさわしい教授の機会を生み出す。
原則4:	教師は、生徒の批判的な思考、問題解決、パフォーマンススキルの発達を促す多様な教授方略を理解し用いる。
原則5:	教師は、積極的・社会的な相互作用、学習における活動的な用務、および、自己の動機付けを奨励する学習環境を生み出すために、個と集団の動機付け、振る舞いの理解を用いる。
原則6:	教師は、効果的な言語、非言語、および活発な調査や連携、そして教室内での支援的相互作用を育成するために、メディアコミュニケーション技術を用いる。
原則7:	教師は、内容、生徒、コミュニティ、カリキュラムの目標の知識に基づいた授業を計画する。
原則8:	教師は評価するための正式な評価方略を理解し用いる。そして、学習者の知的、社会的、身体的発達を高める。
原則9:	教師は、選択と他の人(学習共同体の中の生徒、保護者、他の専門家)への働きかけの効果を継続的に評価し、専門性を高める機会を積極的に追求する反省的实践家である。
原則10:	教師は、生徒の学習と幸福を支援するために、学校の同僚、保護者、そしてより大きなコミュニティの人々との関係を育てる。

筆者は、教員養成段階における教師の力量形成のありようを検討するために、養成段階の学生が、教師となった後の彼ら自身の教師としての成長をも含めて学べるようにすることを求めたいと考えている。したがって、上述した資格認定システムに組み込まれている要点を整理することで、自分自身を成長させるための仕組みに必要な要素や構造についての示唆が得られるのではないかと考える。

NBPTS の公式サイトで公開され入手できる支援用ガイドラインや評価の手順・方法を示した資料によれば、国家認定資格(NBC: National Board Certification)の認定は、個々の教師の申請に基づき始まる。そのシステムの概要を以下に示す。

① 評価のプロセス

NBC の評価プロセスは、優れた実践の根拠に基づいて判断される。全ての領域で、このNBC資格を取得しようとする志願者は、教室での実践をもとにしたポートフォリオの提出と評価センターでのコンピュータで管理された内容知識の評価に基づき判断される。ポートフォリオは、申請者の実践の内容をもとにまとめられたものであり、評価センターで行われる試験は、提出されるポートフォリオでは明らかになりにくい基本的な内容の評価を行うものである。

ポートフォリオは、日常的な実践が子どもの求めに応じるものであり質的に高める手立てが行われるものであったかが評価される。評価センターでの試験は、優れた教師(または、学校カウンセラー)が知っておくべき内容の理解を図るものである。なお、このシステムの説明の部分には、志願者が、自分の強くないと感じている領域を充電したいと考えることは正しいが、ポートフォリオの申請を行うタイミングにリンクすべきではないとの記述がみられる。

このことから、このシステムが、教師の弱点補強を目的とするよりも、力量の確認を目的とすることを示していることが分かる。

② ポートフォリオの概要

ポートフォリオとしては、Profile of professional Growth(職能成長のプロファイル)の提出が義務付けられており、これは、3つの要素(Component)と省察の記述とで構成されるものである。3つの要素というのは、生徒の活動をもとに、生徒の活動が含まれている授業を基準としたもの、ビデオをもとに、教師と生徒の両方をつないで特徴

を示した2つの申請物、授業外の志願者の業績をドキュメントしたものを指す。

コンポーネント1としては、同定される職能成長の4領域に関連する助言への反応を提出することが求められている。これらは、日常の実践経験に基づく職能経験をまとめた4種のPGE(PGE: Professional Growth Experiences)と理解されている。コンポーネント2は、コンポーネント1の中で特徴がみられた職能成長経験(PGE)の中から一つを選び、口付の入った10分間のビデオ記録を必要とするものである。コンポーネント3も、コンポーネント1の中で特徴付けその適用を示したPGEの中の1つ(コンポーネント1で選択したものを除く)を選ぶことを求めている。なお、コンポーネント3では、K-12までの学習者と一緒に、または、同僚と一緒に授業実践の6分間ビデオを作成すること、学習者の作品例(learner's work sample)の特徴を描くことの中から選択することができる。

さらに、3つのコンポーネントに加えて、省察の記述を提出する。それは、教育者として志願者の役割の視点から3つのコンポーネント間の関連やパターンを分析することが求められている。すなわち、志願者自身の継続的な職能成長のための計画や生徒の学習に影響を与えるための努力とともに、職能成長の姿として見出した変化にも焦点を当てて記述することが求められている。

③ 評価センターでの試験の概要

評価センターでの試験についても、ポートフォリオの提出と同様に、資格認定を申請する領域・発達段階に応じて試験で問われる課題の視点や規準が示されている。また、初めて資格認定を受けようとする場合には、6つの内容について試験がなされる。また、その結果を受けて、再取得しようとする場合には、必要な内容のみを受けることもできる。試験は、どの内容とも30分間で回答することがきめられているが、課題となる内容も記述した内容の評価基準も事前に確認することができる。そのため、志願者は十分な準備をして試験に臨むことが可能である。

2008-2009のNBPTSの示すガイド資料によれば、健康に関する領域の資格を追加した25の領域が準備されている。

④ 各領域、発達段階に対応した規準の設定

以上、提出するポートフォリオおよび評価センターでの試験に関する説明を概観すると、このシステム

は、提出に至るまでの準備の過程を通して、志願する教師自身が自分の実践をどのように内省し、どのような視点から実践を見直せばよいのかが明らかになっていくことが分かる。たとえば、志願者が、一般的な資格である「Generalist」領域の認定資格を取得することを考えたとする、この領域では、初等段階（Early Childhood）と中等段階（Middle Childhood）の資格認定を行うことができる。そしてそれぞれの発達段階の規準は、図7のように示されている。

⑤ 評価者

提出されたポートフォリオと評価センターでの試験結果は、あらかじめ設定されている評価基準に基

づき評価され得点化される。本研究で注目している教師の授業実践力にかかわる力量形成の要素は、NBPTSが行う優秀教員を判断する材料として用いられるポートフォリオの中にも含まれていると考える。そこで、ポートフォリオがどのように評価され点数がつけられるのかに注目して整理し以下にまとめる。

優秀教員を認定する規準とされるのは National Board Standards である。先に述べているように各認定分野における認定の可否は、ポートフォリオエントリーと評価センター試験のそれぞれの結果に基づき判断される。資料によれば、国家委員会資格に達するすべての志願者は、彼らの授業実践の中で、強い分析スキルと授業進行に伴う省察という根拠を

Early Childhood

Entry	1	子どものリテラシーの発達を調査する (Examining Children's Literacy Development)
	2	教室のコミュニティーを構築する(Building a Classroom Community)
	3	数学と科学を統合する(Integrating Mathematics and Science)
	4	生徒の学習に貢献する (Documented Accomplishments: Contributions to Student Learning)
Exercise	1	リテラシー(Literacy)
	2	数学(Mathematics)
	3	化学(Science)
	4	社会(Social Studies)
	5	子どもの遊び(Children's Play)
	6	身体教育、健康と安全(Physical Education, Health, and Safety)

Middle Childhood

Entry	1	書くこと、過程を通して考えること (Writing: Thinking through the Process)
	2	社会教育を通して学級のコミュニティーを構築する (Building a Classroom Community through Social Studies)
	3	科学とともに数学を統合する(Integrating Mathematics With Science)
	4	成果の提出、生徒の学習への貢献 (Documented Accomplishments: Contributions to Student Learning)
Exercise	1	読む技術の支援(Supporting Reading Skills)
	2	生徒の仕事を分析(Analyzing Student Work)
	3	科学の知識(Knowledge of Science)
	4	社会(Social Studies)
	5	健康を理解すること(Understanding Health)
	6	芸術を統合(Integrating the Arts)

図7 Generalist の資格を認定する枠組み (Early Childhood, Middle Childhood)

表3 判断レベルと得点幅と根拠の質

Rubric Levels	Score Range	Quality of Evidence
Level 4	3.75-4.25	Clear, consistent, and convincing
Level 3	2.75-3.74	Clear
Level 2	1.75-2.74	Limited
Level 1	0.75-1.74	Little or no

Portfolio entry score range: 3.75-4.25

もし、ポートフォリオエントリーの3種類のうちのどれかの得点が、3.75~4.25の間なら、あなたのパフォーマンスはレベル4のパフォーマンスの特徴をもっていることを示している。あなたはエントリーのための基準をこえる教授学習活動を提供している。そして、あなたは、全体をとおして明快で、一貫して納得できる根拠を提供している。

Student Work-based	<p>あなたは、以下のことを表すために、<u>明快で一貫している納得のいく根拠</u>を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> このエントリーの中にある教授学習の特徴はやりがいのある授業目標と関連していた。 あなたは、生徒の要求に応じるために教授方略を修正した。 あなたは生徒に意味あるフィードバックを与えた。 あなたは、これらの生徒を個々の学習者として分析できた。 あなたは、教授しながら省察し、その後の授業の順序の表現をどのように修正するか決める事ができた。
Video-based	<p>あなたは、以下のことを表すために、<u>明快で一貫している納得のいく根拠</u>を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> このエントリーの中の教授学習の特色は、優れた授業目標と関連していた。 あなたは、すべての生徒に活動的な学習をプロモートする教室環境を作り出した。 あなたは、教授目標にふさわしい効果的な学級での議論か調査を提供できた。 あなたは、教師と子ども、子どもと子どもの意義深いかわりを含む議論を推進できた。 あなたは授業しながら省察し、これからの授業の表現をどのように修正できるか決めることができた。
Documented Accomplishments	<p>あなたは、<u>明快で一貫している納得のいく根拠</u>を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動あるいは業績の本質を正確に記述している。 各活動あるいは業績の重要性を記述している。 生徒の学習について各活動あるいは業績の影響を示している。

図8 ポートフォリオを評価するルーブリックの例 (score range: 3.75-4.25)

示していると記述されている。'実践レベルでのパフォーマンスの良否が教員の優秀さを判断する規準となつて運用されていることは、日本でも同様の流れが認められており、教員養成段階のプログラムを考える際にも実現できる力量の良否を判断の規準とすることが重要であると考え。

そのためには、パフォーマンスがどのように評価されるかが極めて重要なこととなる。NBPTSでは、評価者のための訓練課程は厳しく、そのプロセスは、評価可能者としての資格を与えるステップを含んで

いること。そして、規準と基準としてのルーブリックを用いて、志願者のビデオの中や省察記述の中に見られる応答を公平に評価できることを示さなければならないと明記されている。なお、評価者は、国家委員会の規準と得点ガイダンスの中にある集中的な訓練プログラム手順を成功裏に終了した教師である。

評価者となる訓練についての記述を概観すると、評価者は申請された授業等の注意深いレビューを行い、ビデオ記録の中に見られる姿が、基準として示

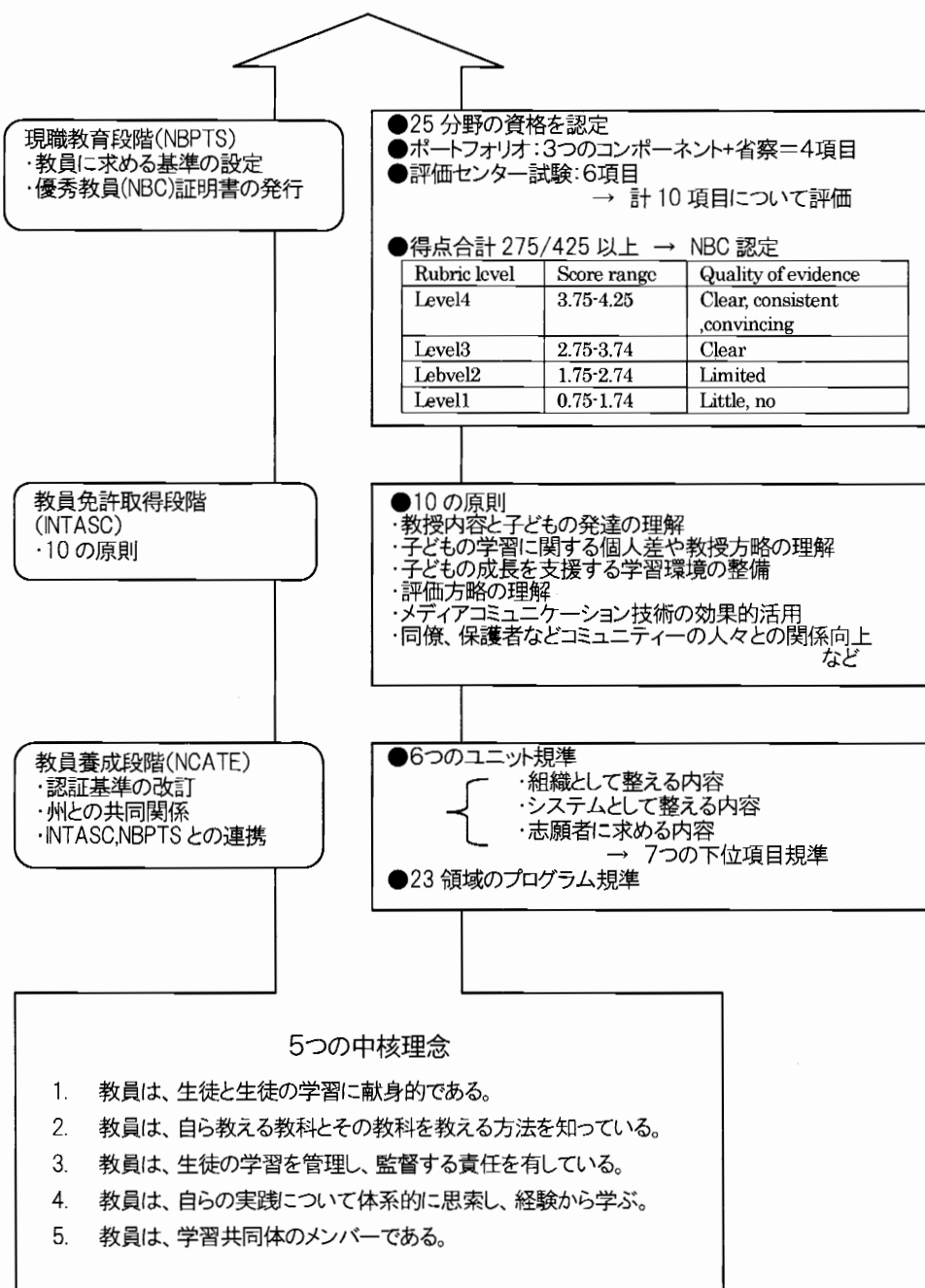


図9 アメリカの教員の質保証にかかわる3機関の連携

されているルーブリックレベルのどのレベルのパフォーマンスに当たるのかを判断することが求められる。評価者の訓練の際には、トレーナーがついており、熟達した評価者が前もってつけた点数と比較する。訓練している評価者のグループに全体結果をアナウンスし、評価者間のグループディスカッションを行い適切なルーブリックレベルの判断ができるよう訓練がなされる。

また、この訓練の際には、個人的なバイアスの可能性、エクササイズや教育実践についての専門的な好み、文体のバイアスのような課題を取り上げ、グループディスカッションを通してバイアスを防止する訓練を行うこととされている。

⑥ 評価結果の得点化

国家委員会は、すべての登録されたポートフォリオと評価センター試験について得点尺度 (Score scale) を用いて得点化する。得点尺度は、4つのおもなパフォーマンスレベル (Level 4, 3, 2, 1) と各レベルに対するプラス、マイナスに基づいている (表3)。その示された点数は、国家委員会資格のパフォーマンス規準に関連している。

評価結果の得点は、登録する4つのポートフォリオと6つの評価センターエクササイズの結果に基づく。そして、4段階のパフォーマンスレベルの特徴を記述した得点用ルーブリックに基づき点数化される。10の評価項目のうち、すべて最高得点をとると合計425点になる。そして、合計点が275点以上になると、国家委員会資格を満したことを意味し、優秀教員として認められる。

⑦ ポートフォリオ申請のパフォーマンスを評価する基準

志願者向けに提供されている「Scoring Guide for Candidate」には、ポートフォリオのそれぞれのパフォーマンスを理解するために、与えられる得点とそれぞれのパフォーマンスレベルに対応した根拠の質との関係が示されている。この表を用いて、志願者は、自分のパフォーマンスの長所や弱点を確認することができる。ガイドには、4段階に分けてパフォーマンスのルーブリックが示されている。基準として示されている記述を比較すると、上位2つの段階については、ルーブリックそのものの表現は同じであるが、その達成レベルの表現で差を表していることを読みとることができる (図8)。最も高い段階 (score range: 3.75-4.25) では、「明快で一貫して

いて納得のいく根拠を提供すること。」が求められており、次の段階 (score range: 2.75-3.25) では、「明快な根拠を提供すること」が求められている。

4. まとめ

以上、アメリカにおける教師の質保証にかかわる3機関の役割や活動内容をまとめると、図9のように表すことができる。

教員養成段階での取り組みに注目すると、全体を貫く方針のもとで、教員になろうとする志願者に何をどこまで求めているのかが詳細に示されていた。また、準備されている23の領域用プログラムの認証規準についても、それぞれの領域に関連する専門機関が常に見直し更新できるようなシステムが確立されていた。このような構造は、学校現場の課題を把握し対応していく継続的な改善のシステムをもっており教師としての成長を担保する重要な支援構造であると考えられる。教師を取り巻く状況は厳しさを増すばかりである。しかし、教師という仕事はやりがいや子どもとかかわる面白さも併せ持つ職業である。教師を志望する学生に対しては、教師になってからの生活も視野に入れた現実的な内容を経験できる機会を組み込むなど養成プログラムを構成する内容や内容のつながりなどについて検討することが必要である。

注1) NCATE 設立母団体となったのは、AACTE (the American Association of College for Teacher Education), NASDTEC (the National Association of State Directors of Teacher Education), NEA (the National Education Association), CCSSO (the Council of Chief State School Officers), NSBA (the National School Boards Association) の5団体であった。

参考文献

- Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium, (1992), *Model Standards for Beginning Teacher Licensing Assessment and Development: A Resource for State Dialogue*, pp.14-34.
- 文部科学省 (1997) 教育職員養成審議会第1次答申「養成と採用・研修との連携の円滑化」

- National Commission on Teaching and America's Future, (1996), *What Matters Most: Teaching for America's Future*, p67.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2009), *Scoring Guide for Candidates: Generalist, Middle Childhood*, pp.1-25.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2009), *Scoring Guide for Candidates: Generalist, Early Childhood*, pp.1-28.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2009), *Interpreting Your Scores*, pp.1-16.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2008), *Assessment Center: POLICY AND GUIDELINES*, pp.1-12.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2008), Assessment Center: Request for Testing *Accommodations Form and Instructions*, pp.1-7.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2007), *Profile of Professional Growth™: Certification Renewal*, pp.6-20, 38-39.
- National Board for Professional Teaching Standards, (2008), *2008GUIDE TO NATIONAL BOARD CERTIFICATION*, pp.1, 16-17.
- National Council for Accreditation of Teacher Education, (2008), *PROFESSIONAL STANDARDS for the ACCREDITATION of TEACHER PREPARATION INSTITUTIONS*, pp.1-24, 47-48, 54-55, 63.
- 小柳和喜雄 (2009) 教師の資質能力としてのディスタンスに関する研究, 日本教育工学会研究報告集 (JSET09-3), 41-48
- 佐藤仁 (2003) 米国教員養成機関の認証に関する一考察: NCATEの近年の動向, 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, 第42号, p 105-113
- 高木幸子 (2007a) 家庭科教員養成における模擬授業実践を取り入れた教育法プログラムの検討 (第1報): 模擬授業実践から学生が学ぶ内容の分析と課題. 日本家庭科教育学会誌, 49(4), 256-267
- 高木幸子 (2007b) 家庭科教員養成における模擬授業を取り入れた教育法プログラムの検討 (第2報): 学生が認識した課題の改善への取組と改善状況. 日本家庭科教育学会誌, 49(4), 268-278
- 高木幸子 (2007c) 目標の提示による家庭科授業に対する評価内容の変容. 新潟大学教育人間科学部紀要, 10(1). 人文・社会科学編. 49-56
- 高木幸子 (2009a) 授業構造に着目した家庭科教員養成プログラムの開発. 家庭科教育学会誌, 51(4), 291-301
- 高木幸子 (2009b) 教育実習とつないで授業実践に必要な知識技術の理解を深める実践参加型授業の試み. 大学教育研究年報, 13. 新潟大学, 大学教育開発研究センター編. 9-12
- 高木幸子 (2009c) 授業実践力の向上についての分析: 教育実習生から教師への成長. 教材学研究第20巻. 39-50